

2026年度 校内研修

1 研究主題

自ら考え 学び合う 子どもの育成
～「書くこと」を通して伝え合う授業づくりを目指して～

2 主題設定の理由

昨年度まで「伝え合うよさを実感できる授業づくりを目指して」授業実践及び授業改善に取り組んできた。研修を進める中で、「学び合い」の時間を重視した。そうすることで、他者の意見を聞いて思考を深める児童が増え、ペアやグループでの話し合い活動に前向きに取り組む姿が見られるようになった。また、「めあての提示・自力解決・学び合い・ふりかえり」という共通の学習モデルをもとに授業を構成した。その結果、児童にとっても活動の見通しをもてるようになった。一方で以下の課題が見えてきた。

- ・自力解決の段階でつまづく児童もあり、そこへの支援が不足している。
- ・外国籍児童が増加しており、文字の習得や語彙の理解に差が見られ、文章の意味を正確にとらえることが難しい児童もいる。
- ・話し合い活動においては、意見を発表して終わりという状態に留まっている児童が多い。他者の考えと比較したり自分の考えを再構築したりする深まりのある学び合いには至っていない児童が多い。

このような児童の実態から、基礎学力をしっかりと身に付け諦めずにやり通すことができる児童、自分の考えをもち主体的に学ぶことができる児童を育てたいと考えた。そこで、本校のめざす子ども像である「心豊かな子」「学ぶ子」を育成するため、国語科の書く活動の研究を進めていくこととした。「心豊かな子」とは、自分も他者も大切にできる子、学ぶことで考えを深め豊かな表現ができる子、「学ぶ子」とは、自ら学び、考え、それを活用して行動することができる子と考える。

どの教科においても「書くこと」は思考を働かせている状態であるため、「書くことのよさ」を児童自身が実感できる学びを大切にする。自分の考えや意見を伝え合う方法は、「話す・聞く」だけではなく、「書くこと」そして「書いたものを読むこと」によっても可能である。人前で発表したり話したりすることを苦手とする児童にも「書くこと」そして「書いたものを読んでもらうこと」によって伝え合う喜びを実感させたい。

「書くこと」は物事を論理的に整理し、相手に伝わるように表出することである書く力ひいては思考する力の向上は国語科だけでなく、全ての教科に影響するものであり、文章を書くことは他の教科や日常生活の中で役に立つものと考えられる。そこで、国語科を中心として書く力を伸ばす活動に取り組むとともに、伝え合うよさを実感できる授業づくりに継続して取り組んでいく。それにより、「書くこと」を通して主体的に考え、書いたものを活用して伝え合う事でより深い学びへとつなげる対話的な学び

の実践を目指してこの研究に取り組んでいくものとする。

3. 研究方法

(1) 研究の目的

「書くこと」を通して伝え合う教育活動を進めることで、「心豊かな子」「学ぶ子」を育てる。

(2) 児童の実態把握

- ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの分析で、強みと弱みを把握し、系統的な指導を行う。分析結果をもとにして、児童が自ら学ぼうとする意欲をもち、「書くこと」を通してなかまとともに伝え合うよさが実感できる授業づくりや学習内容の工夫に取り組む。
- ・国語アンケートを実施し、指導計画に生かしていく。6月と12月の2回実施し、比較する。

(3) 具体的な取組

- ①各学年ごとの「書くこと」の力をつけるための系統的目標を把握し、それらの力を児童一人ひとりに定着することができるよう授業づくりを工夫していく。

く「書くこと」の力をつけるための系統的目標（小学校学習指導要領解説国語編）＞

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
	(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
題材の設定	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
情報の収集			
内容の検討			
構成の検討	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
考えの形成	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
記述			エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
言語活動例	(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
	ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。	ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
	イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。	イ 行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。	
	ウ 簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。	イ 短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。

②学習過程モデルに沿った授業実践と授業の中での支援

「めあての提示」「発問・課題の提示」「自力解決」「学びあう」「まとめ・振り返り」の学習過程の流れを基本として「自ら考え、学びあう」授業づくりを進めていく。また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指すため、授業の中にユニバーサルデザインの視点での支援やこどもの実態に応じた個別の支援を取り入れる。

(1) めあての提示

- ・学習活動の見通しをもつ。

- ★単元及び本時のゴールを最初に示す。

- ★既習事項がわかる掲示などを工夫し、本時の学習につなげる。

(2) 発問・課題の提示

- ・本時の課題をつかむ。

(3) 自力解決

- ・自分の考えをもつ。

- ★見る・聞く・さわる等、直接体験をさせる。

- ★活動開始後すぐに学びに向かうことが難しいこどものところへ行き、
本時の活動内容を確認する。

- ★机間指導を行い、SOSを出しにくいこどもに頻繁に声をかけ、SOSを出し
やすい環境をつくる。

(4) 学びあう

- ・学習のねらいに応じて、全体交流・ペア活動やグループ活動を選択する。

- ★学級全体でこどもを認め自己肯定感を高める。

- ★実態に応じて、困っているこどもの思いや考えを全体に紹介することで、
友だちとつなげ、こども同士で解決できる環境を作る。

(5) まとめ・振り返り

- ・課題に応じたまとめを書く。

- ・用語やキーワードを使って、めあてに応じた学びの振り返りをする。

- ★ふりかえりに何を書くのか、具体的に示す。

- ★前時までの望ましいふりかえりを具体的に示し価値づけることで、め
ざしたいふりかえりのモデルを示す。

③学び合う場の設定

自力解決・学び合いの時間を学習内容に合わせて授業の中でしっかりとることで、対話的・協働的な学びをめざした授業づくりを行う。学年の実態に合わせて、意見を出して終わりにならないよう、自分の考えとの違いを比較させたり、意見や考えの変化や深化に目を向けさせたりする。司会や記録などの役割分担をして話し合いに臨ませる。話し合いの停滞を感じるところで、教師による問い返しで話し合いの深化を図るなど、話し合わせるだけ、という活動にならないよう、教師による机間指導や教材研究を充実させる。

④ICT機器の効果的な活用

ICT機器を活用することで、テキストや写真だけでなく映像も授業に利用できるようにする。そして、子どもたちが授業中に受け取る視覚支援が充実することで、より理解しやすい授業づくりにつないでいくことを目指す。

自力解決、話し合いの場面では、教師がオクリンクに提出させたものを一覧表示、提出BOXの公開を活用することで学びを共有・比較検討できるようにする。中・高学年以降のタイピングが定着してきた学年については実態に合わせてオクリンクプラスやGoogleスプレッドシートの相互参照等を使って作文の添削をする等の協働的な学習にも活用していく。

⑤基礎・基本の定着と語彙力の充実をはかる

各学年の指導事項を確認し、前後の学年とのつながりを意識し、授業の言語活動のなかで国語の知識及び技能を身に付けさせられるように計画を立てる。

また、朝のモジュール学習の時間を活用して、基礎的な問題（CBTワークシート・今日の一問、学Vivaドリル(セット)・「読む・書くワークシート」「よむYOMUワークシート」等）に繰り返し取り組ませていく。

国語科の学習用語・方法・原理・原則等の既習事項を教室内に掲示したり、学習活動の中で提示したりする等をして、基礎的な知識や既習事項を活用できるような教室環境に整える。

さらに、読書に親しむ子を育てていくことを大切にしていける。毎週金曜日には、朝学を読書の時間とする。その際に、担任や読書ボランティアの方々による読み聞かせ等も実施する。また、国語科の学習単元・教材と関連した本の並

行読書をさせられるように教室環境を整える。

家庭学習強化週間・読書強化週間を継続して実施することで、家庭での学習の定着、読書量の増加を図る。ただ実施するという形だけのものにならないように、事前に各学級で目標や学習時間を設定し、指導してから実施することで意欲的に取り組めるよう促す。

⑥伝えることを意識した書く活動の充実

誰に、何のために、どんなことを書くのか目的意識をはっきりさせてから活動に取り組む。取り組んだ内容は、全体で読み合う、学年の掲示板上に掲示する、オクリンク上で共有する、学年通信に載せるなど書いたことを多くの児童と共有することで、書くことを通して伝え合うよさの実感につなげる。また、他者の書いたものを読み合い参照することで、一人ひとりの表現力を育むことも狙っていきたい。

⑦情報活用能力の育成

本校の全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの昨年度の分析結果から、必要な情報を取捨選択し、まとめることを苦手としている児童が多く、情報活用能力の育成も必要と考えられる。また、学習者主体の授業を実現していくためには情報活用能力が基盤として働いてくる。研究の中心は国語としていますが、端末を効果的に活用し各教科のさまざまな場面で情報活用能力の育成を図っていく。

【低学年】

- ・タイピングによる文字入力の技能の育成
 - ・動画や画像、デジタル教科書の操作等を活用した活動
 - ・GoogleClassroom やオクリンクプラス、インターネットを活用し必要な情報を取り出したり、取捨選択したりする。
- (例) オクリンクプラスを新聞づくりなどの使ったまとめ活動
- Google スプレットシートにふりかえりを入力することによる
学びの共有
- インターネットを活用した情報収集とそれらを取捨選択する
調べ学習

【高学年】

- ・オクリンクプラスや Google ドキュメント・スプレットシート・スライド等を活用して自分なりの考えをまとめ、何らかの形で表現する。
- ・一人ひとりが立てためあてやまとめたものをオクリンクプラスや Google スプレットシートで共有することで、友だちの学びを知ることで自分の学びを深める。

学びに向かううちから・人間性の育成
学習者主体の個別最適な学び
協働的・対話的な学び

【鈴鹿市版】情報活用能力体系表～資質・能力、教科書ベース～ ver. 5 (令和8年4月)

資料5

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
知識 技能	○写真や本など身近なものから情報を集めることができる ○相手や目的に応じてまとめ、発信することができる ○端末の基本的な操作ができる	○図書資料やインターネット等から情報を集めて自分なりに読み取るができる ○相手や目的に応じてICT等を活用してまとめ、発信することができる ○教師や他の児童とのファイルのやり取りができる	○学校の事象や図書資料・インターネットから情報を複数集めて分析することができる ○相手や目的に応じて、図表やグラフなどを使って、効果的に発信することができる ○児童同士で情報をやり取りしたり、分担したりして、協働して作業することができる	○学校の事象や図書資料・インターネット等から情報を複数集めて分析することができる ○相手や目的に応じて、図表やグラフなどを使って、効果的に発信することができる ○児童同士で情報をやり取りしたり、分担したりして、協働して作業することができる	○学校の事象や図書資料・インターネット等から情報を複数集めて分析することができる ○相手や目的に応じて、図表やグラフなどを使って、効果的に発信することができる ○児童同士で情報をやり取りしたり、分担したりして、協働して作業することができる	○学校の事象や図書資料・インターネット等から情報を複数集めて分析することができる ○相手や目的に応じて、図表やグラフなどを使って、効果的に発信することができる ○児童同士で情報をやり取りしたり、分担したりして、協働して作業することができる	○学校の事象や図書資料・インターネット等から情報を複数集めて分析することができる ○相手や目的に応じて、図表やグラフなどを使って、効果的に発信することができる ○児童同士で情報をやり取りしたり、分担したりして、協働して作業することができる	○学校の事象や図書資料・インターネット等から情報を複数集めて分析することができる ○相手や目的に応じて、図表やグラフなどを使って、効果的に発信することができる ○児童同士で情報をやり取りしたり、分担したりして、協働して作業することができる	○学校の事象や図書資料・インターネット等から情報を複数集めて分析することができる ○相手や目的に応じて、図表やグラフなどを使って、効果的に発信することができる ○児童同士で情報をやり取りしたり、分担したりして、協働して作業することができる
思考力 判断力 表現力等	○身近な事象や体験学習を通して、疑問を見つけることができる ○身近なところから情報を集め、絵や図などを用いて意見をまとめ、相手に意識しわたりやすくなる表現する	○身近な事象や体験学習、メディア等を通して疑問を見つけ、発信することができる ○情報同士のつながりを見つけたら、表やグラフを用いて整理し、相手に合わせて適切に表現したりすることができる	○身近な事象や体験学習、メディア等を通して疑問を見つけ、発信することができる ○課題解決のために情報を収集したり、情報同士のつながりを見つけたら、整理したりして、問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる	○身近な事象や体験学習、メディア等を通して疑問を見つけ、発信することができる ○課題解決のために情報を収集したり、情報同士のつながりを見つけたら、整理したりして、問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる	○身近な事象や体験学習、メディア等を通して疑問を見つけ、発信することができる ○課題解決のために情報を収集したり、情報同士のつながりを見つけたら、整理したりして、問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる	○身近な事象や体験学習、メディア等を通して疑問を見つけ、発信することができる ○課題解決のために情報を収集したり、情報同士のつながりを見つけたら、整理したりして、問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる	○身近な事象や体験学習、メディア等を通して疑問を見つけ、発信することができる ○課題解決のために情報を収集したり、情報同士のつながりを見つけたら、整理したりして、問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる	○身近な事象や体験学習、メディア等を通して疑問を見つけ、発信することができる ○課題解決のために情報を収集したり、情報同士のつながりを見つけたら、整理したりして、問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる	○身近な事象や体験学習、メディア等を通して疑問を見つけ、発信することができる ○課題解決のために情報を収集したり、情報同士のつながりを見つけたら、整理したりして、問題の解決策を明らかにして表現・発信・創造することができる
学びに 向かう力 人間性等	○世の中には、様々な情報があることを知り、情報に接し、自分の思いや考えをぶつけようとする	○必要に応じて情報収集や整理を行い、集めた必要な情報から課題についての解決策を考えようとする	○課題解決のために情報を収集し、考察や意見交換を行い、考えをまとめようとする	○課題解決のために情報を収集し、考察や意見交換を行い、考えをまとめようとする	○課題解決のために情報を収集し、考察や意見交換を行い、考えをまとめようとする	○課題解決のために情報を収集し、考察や意見交換を行い、考えをまとめようとする	○課題解決のために情報を収集し、考察や意見交換を行い、考えをまとめようとする	○課題解決のために情報を収集し、考察や意見交換を行い、考えをまとめようとする	○課題解決のために情報を収集し、考察や意見交換を行い、考えをまとめようとする
操作 スキル	・ログイン・ログアウト、音量の調節など、端末の基本的な操作方法を理解する ・自分のクラスルームに参加し、教師が配付した資料を見ることができる ・フォームで、教師から提示されたアンケートに回答することができる ・ミライシードにログインし、ドリルパークやオクリンクに入ることができる ・ドリルパークで、自分に合った問題を解き進めることができる ・オクリンクで、写真や動画を撮ったり、絵を描いたりしたカードをつなげてストーリーを作成し、教師へ提出することができる	・インターネットを活用して、必要な情報を収集することができる ・クラスルームで、教師から配付された課題を行い、提出することができる ・ドキュメントで、複数の画像やテキストを組み合わせて、新聞などを作成することができる ・ホワイトボードアプリで、自分の考えを付箋に書き込み、意見交換することができる ・オクリンクで、カードを使い、簡単な資料を作成し、みんなの前でプレゼンテーションすることができる	・スライドで、画像を加工したり、アニメーションをつけたりするなどして、簡単な資料を作成し、みんなの前でプレゼンテーションすることができる ・ホワイトボードアプリで、出された意見を仲間分けしたり、書き込んだりするなどしてまとめることができる ・フォームで簡単なアンケートを作成し、回答を回収することができる	・スライドで、画像を加工したり、アニメーションをつけたりするなどして、簡単な資料を作成し、みんなの前でプレゼンテーションすることができる ・ホワイトボードアプリで、出された意見を仲間分けしたり、書き込んだりするなどしてまとめることができる ・フォームで簡単なアンケートを作成し、回答を回収することができる	・スライドで、画像を加工したり、アニメーションをつけたりするなどして、簡単な資料を作成し、みんなの前でプレゼンテーションすることができる ・ホワイトボードアプリで、出された意見を仲間分けしたり、書き込んだりするなどしてまとめることができる ・フォームで簡単なアンケートを作成し、回答を回収することができる	・スライドで、画像を加工したり、アニメーションをつけたりするなどして、簡単な資料を作成し、みんなの前でプレゼンテーションすることができる ・ホワイトボードアプリで、出された意見を仲間分けしたり、書き込んだりするなどしてまとめることができる ・フォームで簡単なアンケートを作成し、回答を回収することができる	・スライドで、画像を加工したり、アニメーションをつけたりするなどして、簡単な資料を作成し、みんなの前でプレゼンテーションすることができる ・ホワイトボードアプリで、出された意見を仲間分けしたり、書き込んだりするなどしてまとめることができる ・フォームで簡単なアンケートを作成し、回答を回収することができる	・スライドで、画像を加工したり、アニメーションをつけたりするなどして、簡単な資料を作成し、みんなの前でプレゼンテーションすることができる ・ホワイトボードアプリで、出された意見を仲間分けしたり、書き込んだりするなどしてまとめることができる ・フォームで簡単なアンケートを作成し、回答を回収することができる	・スライドで、画像を加工したり、アニメーションをつけたりするなどして、簡単な資料を作成し、みんなの前でプレゼンテーションすることができる ・ホワイトボードアプリで、出された意見を仲間分けしたり、書き込んだりするなどしてまとめることができる ・フォームで簡単なアンケートを作成し、回答を回収することができる
タイピング	・手書き入力や音声入力、文字を入力することができる	・ホームポジションを意識したローマ字入力することができる	・ローマ字表を使わずにタイピングすることができる (10分間に300文字程度の文字が入力できる)	・ローマ字表を使わずにタイピングすることができる (10分間に300文字程度の文字が入力できる)	・ローマ字表を使わずにタイピングすることができる (10分間に300文字程度の文字が入力できる)	・ローマ字表を使わずにタイピングすることができる (10分間に300文字程度の文字が入力できる)	・ローマ字表を使わずにタイピングすることができる (10分間に300文字程度の文字が入力できる)	・ローマ字表を使わずにタイピングすることができる (10分間に300文字程度の文字が入力できる)	・ローマ字表を使わずにタイピングすることができる (10分間に300文字程度の文字が入力できる)
生成AI	・生成AIが文章や画像を作る便利な道具であることを知り、興味をもつ ・教師が生成AIを活用する様子を見て、生成AIとの対話のイメージをもつ	・教師が提示する生成AIの回答には、誤った出力（ハルシネーション）があることに気づき、他の資料等で確かめる（ファクトチェック）大切さを知る ・教師による生成AIへの「問いかけ方（プロンプト）」によって、答えが変わることを体系的に理解する	【1人1台端末での活用開始】 ・学習のパートナーとして生成AIを活用し、アイデア出しや文章の推敲に役立てる ・氏名や顔写真などの個人情報を絶対に入力しないことや、他者の著作権を尊重し生成AIから出力されたものをそのまま自分の作品としないことを理解する	【1人1台端末での活用開始】 ・学習のパートナーとして生成AIを活用し、アイデア出しや文章の推敲に役立てる ・氏名や顔写真などの個人情報を絶対に入力しないことや、他者の著作権を尊重し生成AIから出力されたものをそのまま自分の作品としないことを理解する	【1人1台端末での活用開始】 ・学習のパートナーとして生成AIを活用し、アイデア出しや文章の推敲に役立てる ・氏名や顔写真などの個人情報を絶対に入力しないことや、他者の著作権を尊重し生成AIから出力されたものをそのまま自分の作品としないことを理解する	【1人1台端末での活用開始】 ・学習のパートナーとして生成AIを活用し、アイデア出しや文章の推敲に役立てる ・氏名や顔写真などの個人情報を絶対に入力しないことや、他者の著作権を尊重し生成AIから出力されたものをそのまま自分の作品としないことを理解する	【1人1台端末での活用開始】 ・学習のパートナーとして生成AIを活用し、アイデア出しや文章の推敲に役立てる ・氏名や顔写真などの個人情報を絶対に入力しないことや、他者の著作権を尊重し生成AIから出力されたものをそのまま自分の作品としないことを理解する	【1人1台端末での活用開始】 ・学習のパートナーとして生成AIを活用し、アイデア出しや文章の推敲に役立てる ・氏名や顔写真などの個人情報を絶対に入力しないことや、他者の著作権を尊重し生成AIから出力されたものをそのまま自分の作品としないことを理解する	【1人1台端末での活用開始】 ・学習のパートナーとして生成AIを活用し、アイデア出しや文章の推敲に役立てる ・氏名や顔写真などの個人情報を絶対に入力しないことや、他者の著作権を尊重し生成AIから出力されたものをそのまま自分の作品としないことを理解する
プログラミング									
目標	○問題の解決や表現活動の際には、手順があることに気づく ○身近な生活でコンピュータが活用されていることに気づく	○問題の解決や表現活動の際には、コンピュータとプログラムの関係を体系的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成ができる	○問題の解決や表現活動の際には、コンピュータとプログラムの関係を体系的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、評価・改善することができる	○問題の解決や表現活動の際には、コンピュータとプログラムの関係を体系的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、評価・改善することができる	○問題の解決や表現活動の際には、コンピュータとプログラムの関係を体系的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、評価・改善することができる	○問題の解決や表現活動の際には、コンピュータとプログラムの関係を体系的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、評価・改善することができる	○問題の解決や表現活動の際には、コンピュータとプログラムの関係を体系的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、評価・改善することができる	○問題の解決や表現活動の際には、コンピュータとプログラムの関係を体系的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、評価・改善することができる	○問題の解決や表現活動の際には、コンピュータとプログラムの関係を体系的に理解し、順次、分岐、反復を含んだプログラムの作成を行い、評価・改善することができる
端末を使った 教材例	・Viscuit ・ミライシード内のスクラッチ 「たいそうのうごき」 「九九の文章問題を解く」 「ひょうしをかんじて、リズムうちにしたしもう」	・プログラミングゼミ ・ミライシード内のスクラッチ 「めいれいのじゅんぱん」 「あまりのあるわり算」 「そうじロボットのプログラミングを考えよう」 「思い通りにキャラクターを動かす」 「ものの位置の表し方」 「都道府県クイズづくりに挑戦しよう」 「5つの音を組み合わせて旋律を作る」	・スクラッチ ・プログル ・マイクロボット (5年生) 算数：倍数を求める手順を考えよう ：正多角形をかく手順を考えよう 理科：ふりこのきまり 音楽：和音で旋律づくり (6年生) 算数：数の並びかえ方考えよう 理科：発電と電気の利用 音楽：和音で旋律づくり	・スクラッチ ・プログル ・マイクロボット (5年生) 算数：倍数を求める手順を考えよう ：正多角形をかく手順を考えよう 理科：ふりこのきまり 音楽：和音で旋律づくり (6年生) 算数：数の並びかえ方考えよう 理科：発電と電気の利用 音楽：和音で旋律づくり	・スクラッチ ・プログル ・マイクロボット (5年生) 算数：倍数を求める手順を考えよう ：正多角形をかく手順を考えよう 理科：ふりこのきまり 音楽：和音で旋律づくり (6年生) 算数：数の並びかえ方考えよう 理科：発電と電気の利用 音楽：和音で旋律づくり	・スクラッチ ・プログル ・マイクロボット (5年生) 算数：倍数を求める手順を考えよう ：正多角形をかく手順を考えよう 理科：ふりこのきまり 音楽：和音で旋律づくり (6年生) 算数：数の並びかえ方考えよう 理科：発電と電気の利用 音楽：和音で旋律づくり	・スクラッチ ・プログル ・マイクロボット (5年生) 算数：倍数を求める手順を考えよう ：正多角形をかく手順を考えよう 理科：ふりこのきまり 音楽：和音で旋律づくり (6年生) 算数：数の並びかえ方考えよう 理科：発電と電気の利用 音楽：和音で旋律づくり	・スクラッチ ・プログル ・マイクロボット (5年生) 算数：倍数を求める手順を考えよう ：正多角形をかく手順を考えよう 理科：ふりこのきまり 音楽：和音で旋律づくり (6年生) 算数：数の並びかえ方考えよう 理科：発電と電気の利用 音楽：和音で旋律づくり	・スクラッチ ・プログル ・マイクロボット (5年生) 算数：倍数を求める手順を考えよう ：正多角形をかく手順を考えよう 理科：ふりこのきまり 音楽：和音で旋律づくり (6年生) 算数：数の並びかえ方考えよう 理科：発電と電気の利用 音楽：和音で旋律づくり
情報モラル等									
目標	○他者の作ったものを大切にすることや他者に伝えてはいけない情報があることを理解する ○コンピュータやインターネットの基本的なルールやマナーを理解する	○情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他者の情報の大切さを理解する ○生活の中での必要となる情報セキュリティを理解する	○情報通信ネットワーク上のルールやマナー及び悪用に関する危険性を理解する ○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する ○情報社会での情報技術の働きや情報化に伴う産業や国民生活の変化を理解する	○情報通信ネットワーク上のルールやマナー及び悪用に関する危険性を理解する ○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する ○情報社会での情報技術の働きや情報化に伴う産業や国民生活の変化を理解する	○情報通信ネットワーク上のルールやマナー及び悪用に関する危険性を理解する ○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する ○情報社会での情報技術の働きや情報化に伴う産業や国民生活の変化を理解する	○情報通信ネットワーク上のルールやマナー及び悪用に関する危険性を理解する ○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する ○情報社会での情報技術の働きや情報化に伴う産業や国民生活の変化を理解する	○情報通信ネットワーク上のルールやマナー及び悪用に関する危険性を理解する ○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する ○情報社会での情報技術の働きや情報化に伴う産業や国民生活の変化を理解する	○情報通信ネットワーク上のルールやマナー及び悪用に関する危険性を理解する ○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する ○情報社会での情報技術の働きや情報化に伴う産業や国民生活の変化を理解する	○情報通信ネットワーク上のルールやマナー及び悪用に関する危険性を理解する ○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する ○情報社会での情報技術の働きや情報化に伴う産業や国民生活の変化を理解する
道徳	(光村図書) 「みんなであつたものやばしょ」 「いろいろなやくそくやきまり」	(光村図書) 「角がついたかいじゅう」 「どうして声をかけるのかな」	(光村図書) 「やめられない」 「インターネットにむちゅう」	(光村図書) 「つまらなかった」 「インターネット上のやり取り」	(光村図書) 「あいさつって」 「インターネットの特性とマナー」	(光村図書) 「気に入らなかった写真」 「インターネット上の権利」	(日本文芸出版) 「言葉の向こうに」 「使っても大丈夫？」 「違いを認識したコミュニケーション」 「ソウタとミオ」	(日本文芸出版) 「五月の嵐 カナ、ミカ」 「いじめをなくすために」 「戦争を取材する」 「ネット探偵」 「情報の受信と発信」	(日本文芸出版) 「いじめのない社会へ」 「親友と語り合った「孤独の解消」」 「AIと情報社会」 「マナーってなんだろう」
各教科		・じゅんじょ（国語） ・メモをとるとき（国語）	・全体と中心（国語） ・引用するとき（国語） ・コンピュータの使用とけんこう（保健）	・考えと例（国語） ・要約するとき（国語）	・原因と結果（国語） ・目的に応じて引用するとき（国語） ・発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を理解する ・買い物の仕方考えよう（家庭） ・インターネットによる犯罪被害（保健） ・ICTでチャレンジ（図工）	・主張と事例（国語） ・情報と情報をつなげて伝えるとき（国語） ・デジタル機器と私たち（国語） ・インターネットでニュースを読もう（国語） ・課題解決に向けて考える（国語）	・情報収集の達人になろう（国語） ・情報整理のレッスン・思考のレッスン（国語） ・4編 情報の技術 1章 4章（技術） ・休養・睡眠と健康（保健） ・調和のとれた生活（保健） ・性とどう向き合うか（保健）	・メディアの特徴を生かして情報を集めよう（国語） ・デジタル市民として生きる（国語） ・情報整理のレッスン・思考のレッスン（国語） ・5編 私たちの消費生活と環境 1章 2章（家庭）	・実用的な文章を読もう（国語） ・報道文と比較して読もう（国語） ・情報整理のレッスン・思考のレッスン（国語） ・情報が変わる社会の仕組み（社会） ・マスメディアと世論（社会）
文科省動画	※学習用タブレットの上手な使い方	※スマートフォンやタブレットなどの使いすぎ	①ゲームに夢中になると・・・	※パスワードについて考えよう	②軽い気持ちのID交換から・・・ ③ひとりよがりの使い方にならないように	③そのページ確認しなくても大丈夫？ ④どうも伝わったかな？ ⑤思ったままSNSに送信しただけなのに	③身近にひそむネットの使い過ぎ ④大切な情報を守るために ⑤コミュニケーションの取り方を見直そう	③情報の記録性・公開性の大きさ ④軽信するSNSへの投稿	④ネット詐欺等に巻き込まれないようにするために ⑤写真や動画が流出する怖さを知る

4. 年間研修計画

一 学 期	4 月	本年度の研修（国語・人権）の方向性の検討 研修計画の作成 全国学力・学習状況調査、みえスタディチェック実施
	5 月	授業研究（5 年生 国語） 家庭学習の実施・集約
	6 月	校内研修（人権） 授業研究（3 年生 国語）
	7 月	国語アンケートの実施・集約
	8 月	全国学力・学習状況調査の結果の分析
二 学 期	9 月～	全国学力・学習状況調査の結果を受けての取組
	1 1 月	授業研究（人権） 家庭学習・読書強化週間の実施・集約
	1 2 月	国語アンケートの実施・集約
三 学 期	1 月	研究授業（たんぽぽ） 家庭学習・読書強化週間の実施・集約 本年度の研修の振り返り
	2 月	研修のまとめ、次年度の方向性についての話し合い